【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀市立川副中学校

1　前年度 評価結果の概要	生徒・保護者・教職員のアンケート数値も高く，学校関係評価者からも高評価をいただいた。 ・学力向上においては，校内研修で全職員１回以上の研究授業を行い，また，公開授業を行い全国各地にハイブリッドで配信した。その結果，「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりへの意識を高めることができた。しかし家庭学習の支援・習慣化が課題となった。 ・働き方改革については，定時退勤促進日の設定や生徒の登校時間等の見直しを行い改善されたが，さらなる改善が必要である。
2　学校教育目標	We　love　KAWASOE！ 自他を大切にし　志をもって 主体的に学び活動する　生徒の育成
3　本年度の重点目標	○あいさつの言葉が響く活気あふれる学校　○生徒の主体的な学びと活動を支える学校　○美しい学校　○安全・安心な学校　○保護者，地域とつながり信頼される学校 1　全教職員での協働体制と関係機関・保護者との連携により，校内研究の推進と特別支援教育の充実を図り，280人全ての生徒に学びと居場所を保障する。 2　キャリア教育と校内研修をさらに充実させ，志をもって，主体的に学び活動する生徒を育成する。 3　人権･同和教育，道徳教育の充実とチームでの生徒指導・教育相談体制により，自他を大切にする生徒の育成を図る。 4　ふるさとに貢献する生徒を育成する。 5　健やかな体の育成を図る。6　いのちを守る安全・防災教育を実践する。

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上	「授業づくりのステップ1・2・3　Vol.2」を踏まえた「書く活動」「話し合う活動」の適切な設定 ・UDの視点を生かした学びやすい学習環境づくり ・教職員間でのマイプランの共有及び校内研修等による取組の促進	A	・わかりやすい授業の実施や学力向上への取り組みに関して生徒は98%，保護者は91%が評価している。また，100%の教師が「授業づくりのステップ1・2・3」踏まえた授業を行っていると回答。一人一人に対応したきめ細かい指導が行われているといえる。 ・SDGs関連や一人1台端末の活用推進等，授業改善も推進されている。	A	・SDGsカードや「めあて」のカードを使用，タブレットPCの活用が充実していた。 ・生徒，保護者のアンケート調査は，高評価である。子ども達が前向きに努力している結果の表れである。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
	○学習意欲の向上・学習習慣の定着	○評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」のB以上が70%以上 ○自学ノートに取り組む生徒の割合80%以上	・単元やまとまりの中で適正な評価を行い，生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる ・自学ノートに取り組む生徒への支援（学習目標の設定，学習方法の提案）	B	・教師，生徒，保護者ともに25%が家庭学習での取り組みに不十分さを感じている。生徒の意識や習慣を変えていくことや，保護者への理解や協力体制を向上させること，課題の工夫やマイプランの活用などによる支援の仕方を工夫改善し，子どもたちの家庭学習の習慣化や計画性，自発性などを身につけさせることが不可欠である。	B	・授業中の態度は，素晴らしい。生徒も主体的に学んでいる。 ・自学ノートはほぼ毎日できているが，他の家庭学習があと一歩であった。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が，自他の生命を尊重する心，他者への思いやりや社会性，倫理観や正義感，感動する心など，豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケート（「生命尊重」「他者への思いやり」「正義感」「郷土を愛する心」）において，肯定的な回答をした生徒70%以上	・人権集会や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・川副町出身の偉人の生き方を学ぶ地域教材の作成及び「ふるさとを思う心」に関する道徳教育の実施 ・地域と連携した校内外でのボランティア活動の実施	A	・各学年で計画的に道徳の授業を実践できた。体育大会や文化発表会などの学校行事後には，生徒会と連携して，承認活動も行った。 ・人権集会では，本校の生徒作文を生徒会が朗読し，身近にある人権について，考えるきっかけをつくった。 ・地域と連携して清掃活動を行い，郷土についての関心を高めることができた。	A	・人権の視点で物事を見られることができるようになってきたことが素晴らしい。 ・佐野常民やSDGsの学習については，子ども達に浸透してきている。	道徳教育推進教諭 人権・同和教育担当者 学年主任
	●いじめの早期発見，早期対応体制の充実	○校内生徒指導体制を整え，関係生徒及び保護者に計画的かつ組織的な関わりをもつ。 ○生活アンケートやいじめアンケートを毎月実施し，生徒現状を把握し，早期発見・早期対応につなげる。 ○安心して生活できる学年・学級だと感じる生徒90%以上	・いじめが疑われる事案を知った場合に，すぐに管理職へ報告と組織的に対応の実施 ・再発防止と被害者の支援・加害者の指導等，学校全体による取組の実施 ・職員の危機意識の高揚による未然防止	A	・評価の結果は，職員3.7，生徒3.5，保護者3.3，総合評価3.5で達成度はAであった。 ・問題行動やいじめに対して，全職員で共有し対応することができた。また，授業中だけでなく準備時間や昼休みの巡回時に積極的に声かけをし，生徒理解に努めた。	A	・先生方は生徒に寄り添い，休み時間等も含めて多くの時間を生徒とともに過ごしてあり，信頼関係も築けている。 ・いじめも初期の段階で対応してもらっているので，生徒も安心して学校生活を送れている。	生徒指導主事 各学年生徒指導担当者 学年主任
	◎生徒が夢や目標，志をもち，その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標，志をもっている」について肯定的な回答をした生徒（中学3年生）80%以上	・マナー検定を実施し，夢や目標を持たせる。 ・外部機関と連携したキャリア教育を充実させ，将来の夢を持たせる。 ・将来の目標達成に向けて，SDGsの講演会を実施し，生徒が持続可能な社会の担い手となる方向性を示す。	A	・文化発表会で，各学級の代表者の夢や目標の共有を行った。進路実現に向けて，どんな行動をしていく必要があるか考えるきっかけを作ることができた。 ・生徒主体のSDGs発表を行い，取り組みの成果と課題について発信することができた。	B	・キャリアプランニングの発表等で，どの子も堂々と発表できており，素晴らしいと感じている。 ・保護者と生徒の評価に乖離があるので，今後はその差を縮めるように取り組んで欲しい。	教務 学年主任
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上	・運動部活動や社会体育活動への加入奨励 ・体育的学校行事の推進 ・町の総合型地域スポーツクラブとの連携	A	・運動部活動や社会体育への加入率は，47%であった。また，部活動の休養日（平日，休日）はしっかり守れた。 ・運動習慣の二極化，基礎体力の低下，運動部加入率の低下が課題である。 ・学校行事は縮小されたが，内容は充実していた。 ・朝食，就寝時間，起床時間の調査結果から就寝時間が全体的に遅くなっていることが課題である。	B	・今年度もコロナのため，部活動をはじめとして，以前より活動に制限があった。 ・運動部の加入率は減少し，特に1年生は部活動にも社会体育にも所属していない生徒が多い。運動習慣の二極化は危惧される。 ・中体連の社会体育参加，部活動の地域移行など過渡期にあたっていて，その動きを注視していきたい。	保健主事 養護教諭 食育推進担当 保健体育教諭 運動部活動担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・出退勤時刻の入力による時間管理能力の向上 ・部活動に係る基本方針に沿った活動と休養日の設定 ・定時退勤日の設定，実行 ・生徒の登校時間の見直し ・放課後学習会の見直し ・管理職による退勤の呼びかけ	A	・評価の結果は3.2であった。すべての月で，超過勤務時間が前年度を下回ることができた。 ・部活動に係る基本方針に沿った活動と休養日の設定は100%達成できた。 ・全職員のひと月当たりの時間外勤務時間の平均33時間であった。 ・毎月超過勤務に関する文書や呼びかけで，意識を高めることができた。	A	・コロナ禍のため，行事削減や部活動短縮も要因の一つであった。 ・様々な取組をとおして，教員の意識改革が行われており，時間外勤務の縮減がなされている。	管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○魅力ある学校づくり	○教育相談の充実，居場所づくり，学習の場の保障	○自分には心の居場所があると感じる生徒の割合80%以上 ○自分にあった学習をすることができると思う生徒の割合80%以上	・教育相談期間の設定による教育相談活動の充実 ・SCや学習支援員等との連携による個々の生徒に対する支援の充実や学びの場の提供 ・学校医，SSF等の関係機関との連携やSC・SSW等の専門人材を活用した不登校生徒の支援	A	・自分には心の居場所があると感じる生徒の割合が90%を超え，相談しやすい環境づくりができた。 ・SCの存在が生徒・保護者に周知され相談件数が増えた。 ・校内での情報共有と外部機関の活用を通して生徒支援を行うことができた。	A	・学校に心の居場所があると回答した生徒の割合が90%を超えているということは，素晴らしいことなので，継続してほしい。 ・学校の取組や姿勢が不登校減少につながっている。	教育相談担当 管理職
	○人間関係づくり コミュニケーション能力の育成	○安心して生活できる学年・学級だと感じる生徒90%以上 ○QUテストにおける学級満足度の割合60%以上	・全校一斉方式によるSSEやグループエンカウンター等の実施による学級活動の充実と望ましい人間関係づくりの育成 ・QUテストを活用した人間関係の構築及び学級集団のモラル向上の推進	A	・職員，生徒，保護者共に昨年度と同様の数値であった。今年度もリモートで工夫しながら全校一斉方式によるSSEを3回実施することができた。・QUテスト結果では，学級満足度の割合が1年生73%，2年生66%，3年生58%と3年生以外は目標の60%には届くことができた。すべての学年が全国平均の41%を上回っており，各学年各学級の取り組みの成果といえる。	A	・QUテストの結果は高い。これは，クラスが楽しいということなので，今後も頑張って欲しい。 ・SSEを推進しており，コミュニケーション能力の向上が見られる。	特別活動担当 学年主任 学級担任
	○学校生活の向上（あいさつ・ルール・マナーに関する意識の向上） ○校内の環境整備・美化	○明るく元気なあいさつができる生徒90%以上 ○自問清掃検定の合格率80%以上	・生徒会や部活動による啓発活動や生活アンケートの実施等による生徒の意識向上 ・生活目標を活用した学級指導の充実 ・トイレや手洗い場の清潔な環境維持についての指導の充実	A	・生徒会によるあいさつ運動やあいさつが素晴らしい生徒への表彰活動を行い，意識向上を図った。 ・環境維持では，集会等で環境に関する話をすることで意識を高めた。その結果，自問清掃に積極的に取り組む生徒の増加につながった。	A	・あいさつ運動の時に，川副中の生徒はよくあいさつをしてくれる。 ・教育委員会等の来訪者も，掃除が大変上手だと評価してもらっている。学校は，多くの生徒が安心して生活できる環境にある。	生徒指導主事 各学年生徒指導担当者 部活動担当 生徒会担当

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・校長のマネジメントのもと，各評価項目において成果が出ていると考えられる。学力向上（家庭学習の支援）以外の項目において，生徒・保護者・教職員のアンケート数値も高い。 ・学力向上においては，SDGsの研修を行い，どのように授業に取り込んでいくかを考え，研究授業を行った。また，総合的な学習の取り組みの公開授業を行い，全国各地にハイブリッドで配信した。 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりへの意識を高めることができた。しかし家庭学習の充実，支援，習慣化が来年度も課題となった。基礎・基本の定着を行っていきたい。 ・生徒が夢や目標，志をもち，その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動については，保護者と協力しながら次年度は進めていきたい。 ・アンケート全般から，生徒や保護者が，安心して学校生活を送ることができていると感じている。教職員が一丸となって，このことを継続していきたい。